

# イチゴ栽培における難防除病害虫対策の支援

東近江農業農村振興事務所農産普及課

## 【普及活動のねらい・対象】

イチゴ栽培では、ダニ剤の効果低下、うどんこ病耐性菌の出現、炭そ病の発生などにより、薬剤防除回数や使用薬剤数が増加し労力やコストの面から大きな問題となっています。

管内最大のイチゴ園を有するK農園においても、農薬散布量と散布回数の増加が課題となっていたため、平成27年度から、管内では初めてとなる化学合成農薬に頼りすぎない総合防除技術の導入を支援しました。

## 【普及活動の内容】

K農園に対して、総合防除技術として、紫外線照射によるうどんこ病の発生抑制、苗への高濃度炭酸ガス処理と本ぽでの天敵製剤によるハダニ類の発生抑制の取組を支援しました。

また、これらの技術導入を推進するため、同農園を会場とする栽培研修会を開催し、農薬削減効果と導入コストの評価を行い、管内生産者への普及を図りました。

## 【普及活動の成果】

総合防除技術を導入した結果、病害虫の発生を抑制でき、本ぽでの使用薬剤数は、うどんこ病で前年比14%、ハダニ類で同29%となり、農薬費と散布労賃で6.8万円/10aが削減できました。

3技術の導入費用は年間20万円/10aであり、差引き13万円/10a余り増加しましたが、病害虫の多発による被害額はその何倍にもなる場合があることから、本技術はリスクを回避するための対策として有効であると考えられます。

栽培研修会では、経費増加に見合う収益向上目標を示すことで、具体的に導入検討してもらいました。合わせて、積極的に規模拡大されているK農園の経営状況と総合防除技術を直接確認してもらったことで、新たに紫外線照射9戸、高濃度炭酸ガス1戸で導入がすすみ、東近江地域における減農薬栽培の拡大につながっています。



写真1 紫外線照射  
(UV-B電球形蛍光灯)



写真2 高濃度炭酸ガス処理



写真3 天敵製剤の放飼

### ◎対象者の意見

農薬散布労力が大きく削減し、イチゴ品質も向上し、年内収量にも満足しています。減農薬栽培に努めていることをお客さんに理解いただきたいと感じています。(K氏)